

センターだより

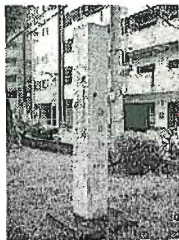
第391号
2007年12月15日発行
(財)西成労働福祉センター
大阪市西成区萩之茶屋 1-3-44
☎06-6641-0131

旧木津村 歴史発見ウォーク

折口信夫：明治20年大阪府西成郡木津村に生まれる。大学卒業後府立今宮中学校の教員（国漢担当）となる。後に民俗学、国文学、神道思想を融合した独特の「折口学」の世界をきりひらき、文学史、芸能史、民俗学、国語学、古典研究、神道学、古代学などの分野ですぐれた成果を挙げる。

木津勘助：本名、中村勘助。豊臣秀吉に仕え、堤防工事や新田開発に尽くす。江戸時代に木津川の開削、勘助島（現浪速区大国町）の発展に寄与した。後に大飢饉の際、米（備蓄米）放出を願い出たが聞き入れられず、私財を投げ打って村人に分け与え、私財が無くなり「お蔵破り」を執行したことなどから今なお敬愛されている。

勘助橋跡石碑
石碑の側面に「橋はなくとも勘助橋は渡りますぞえいつまでも」とある。



**折口信夫
生誕の地碑**



**敷津松之宮神社と
大國主神社（鳥居・
本殿がクロスした
珍しい神社）**



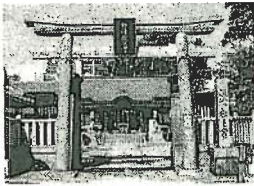
なるほど
なるほど



大國主神社鳥居



木津勘助の墓
（唯専寺の中にある）



敷津松之宮鳥居

**民間の卸売市場
としては日本一**

木津卸売市場



大阪市立馬淵生活館



願泉寺
（折口信夫の墓がある）

**木津今宮墓地
（二トリの裏にある）**



皆さん、お疲れ
さんでした。来
年春にまた会
いましょう。

では、出発
します

新今宮駅

新今宮駅横のコンビニからJRの駅北側へ抜ける高さ2mほどのトンネルは、明治25年に作られたレンガ積みの高架で、作られた当時は複線だったのが昭和41年に複々線になったため南北のコンクリート部分が広がられた。明治30年にJRを境に北側は大阪市になり、南側はそのまま今宮村として残った。

技能講習事業の科目と日程 受付9時～10時 選考10時～ 午後説明会

講習科目	受付	講習日	人数	講習日
車両系（解体用） 車両系（整地ほか用）所持者 送迎・1日間	12月20日（木）	20人	1月15日（火）	
ガス溶接 通所・2日間	12月25日（火）	15人	（学科）1月20日（日） （実技）1月26日（土）	
玉掛 3日間	12月26日（水）	30人	1月21日（月）～23日（水）	
フォークリフト 普通運転免許所持者 4日間	1月8日（火）	25人	1月24日（木）～27日（日）	
車両系（整地ほか用） 大特免許所持者は対象外 5日間	1月10日（木）	30人	1月30日（水）～2月3日（日）	
フォークリフト 普通運転免許所持者は対象外 5日間	1月17日（木）	20人	1月31日（木）～2月4日（月）	
車両系（整地ほか用） 大特免許所持者 2日間	1月22日（火）	15人	2月6日（水）～7日（木）	

古地図をたどって、村人気分
歴史再発見ウォーク（秋の部）

去る11月13日（火）の午後、センター主催で実施。晩秋の快晴のもと、17名が参加。

案内人は大阪市大の水内俊雄教授（地理学）。予定を変更して、「江戸時代から明治初期の古地図を見つけたので、これに沿って歩いてみましょうか」ということに。今のあいりん地域が田んぼしかなかった時代の旧今宮村、旧木津村の歴史の跡を約2時間半歩きました。昔の街道筋・市場・お寺・神社・お墓等を「再発見」。古地図をたどって歩くことのおもしろさを「新発見」

来春もやりませ。以下、紙面がないのが残念です。

愛着が高まった半日でした。上の地図と写真は今回見つけたところ。これ以外にも歩きながら色々と水内教授のお話がありました。

**森先生の
詰め将棋**
（五手詰）
持駒なし

9	8	7	6	5	4	3	2	1
								皇
								竜
								銀
								玉
								角
								歩

答えは裏面に掲載

11月の求人数

	対前月 増減比	前年同月 増減比	
現金（日払い）	53,358	-18.9%	-23.6%
契約（相対分）	45,604	-1.3%	-6.6%
契約（窓口）	6,591	-16.2%	-0.0%
高齢者清掃	4,854	-6.6%	-6.4%

求人情報

十一月の求人は全く伸びず、師走に入った。

年末求人の動向を約三百四十社に聞き取った。「半減や、全然ない」との声が返ってくる。全体で、上向きと回答した事業所は昨年比で半減し二割台に落ちている。明るい話題はなかなか拾えない。

しかし、聞き取りの集計では、契約で約四千人が働いている「西成の人はよくやってくれる」のコメントがうれしい。トンネルの向こうに少し明かりが見えるようだ。

年明けの現金求人は例年、我々が過ぎてから。